

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 16日は、高気圧が日本のはるか東を移動し、前線が大陸から西日本にのびる。
- 17日から18日にかけて、低気圧が中国東北区からサハリン付近に進み、気圧の谷が北日本を通過する。また、前線が西・東日本付近にのびる。
- 19日から20日にかけて、低気圧が中国東北区を北東に進み、気圧の谷が北日本を通過する。前線は本州南岸付近から日本の南へゆっくり南下する。

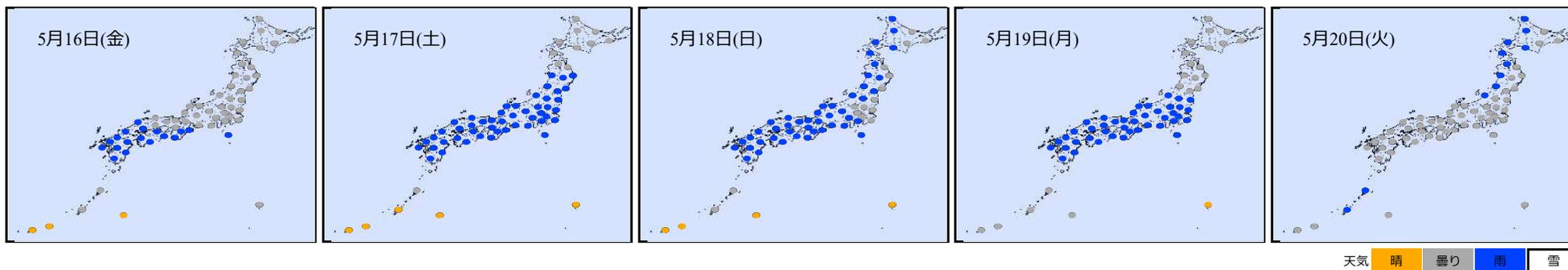
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 17日から19日頃にかけて、前線が東日本から西日本付近に停滞する見込み。前線に向かって流れ込む暖かく湿った空気の影響で、東日本から西日本にかけての太平洋側を中心に大雨となるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

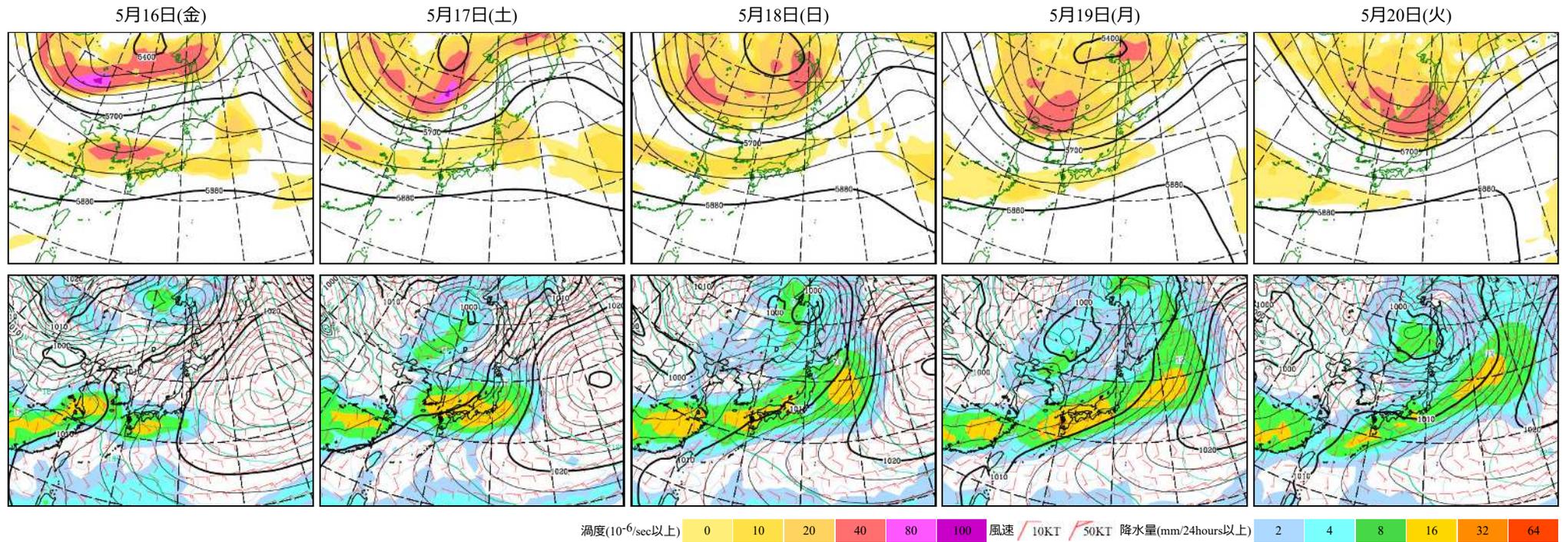
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

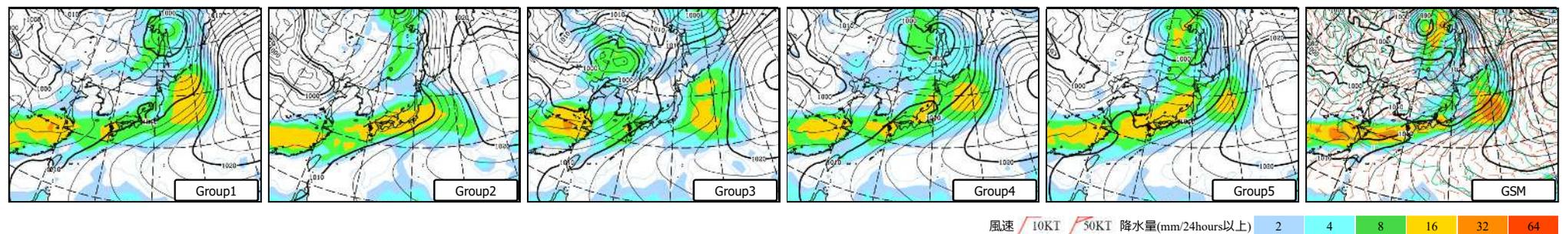


- 北日本から西日本にかけては、曇りや雨の降る日が多い。
- 沖縄・奄美は、16日から18日は晴れまたは曇りとなるが、その後は雲が広がりやすく、20日は雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆5月18日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料 (ENS) は、大きな初期値変わりはない。17日から19日にかけては、日本のはるか東のリッジが強まり、中国東北区のトラフが深くなる傾向になった。地上の気圧配置の予想も大きな初期値変わりはない。
- 各モデルともに17日から19日にかけて日本付近に進むトラフの予想に初期値変わりがあるが、モデル間の差は比較的小さい。17日以降、日本付近に前線がのびる予想だが、前線の位置にはモデル間の差がある。
- 18日の前線の位置にはモデル間の差が大きい、ENSでは多くのメンバーが東・西日本付近に前線を予想している。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考えるが、18日以降は日本付近にのびる前線の位置に不確実性がある。前線の位置によっては予報が大きく変わる可能性がある点に留意。